

## 史跡横須賀城跡三の丸確認調査について

掛川市文化・スポーツ振興課文化財係

## はじめに

- 史跡横須賀城跡の概要(1P、2P、3P参照)  
⇒高天神城攻めの拠点として天正年間に大須賀氏が築城。  
⇒砂岩の丸石を用いた玉石垣が著名。
- 江戸時代を通して、三の丸(17世紀中葉/井上氏)、二の丸(17世紀後葉/本多氏)、と城域を拡大(3P下図参照)。  
⇒石高に比して広大な城域を持つ遠州南部の一大拠点として機能。
- 横須賀城跡における整備の状況(天守台、本丸、西の丸、井戸曲輪、櫓門、松尾山、三日月池は整備済み)
- 三の丸(東外堀・牛池)、大堀切の調査・整備が課題。  
⇒大規模な削平と造成を受けている影響で、現況で三の丸の様相を掴むことは不可能。  
⇒残存の可能性が高い東外堀と牛池の正確な規模・範囲を把握し、三の丸整備の検討に必要な資料収集が必要。

## 1. 三の丸確認調査の概要

- 確認調査は19,963.73㎡を対象範囲とし、幅2m、幅4mのトレンチを7本設定。  
(3Pの①部分) 東外堀から大堀切への接続状況を確認するため、南北方向に長さ30mの1トレンチを設定。  
(3Pの②・③部分) 東外堀の規模を確認するため、東西方向に長さ50mの2トレンチ、長さ15mの3トレンチを設定。  
(3Pの④部分) 牛池の規模、範囲の確認のため、南北方向に長さ35mの4トレンチ、東西方向に長さ15mの5トレンチ、東西方向に長さ20mの6トレンチ、南北方向に長さ20mの7トレンチを設定。
- 調査期間は、令和3年11月15日から令和3年12月28日まで。

## 2. 三の丸確認調査の成果(3P、4Pの図面を参照)

## (1) 1トレンチ

- 大堀切に生えている竹木を一部除去。
- 地表面から60cm程度掘削した段階で、多くの水が湧き出したことにより、調査の続行を断念。  
⇒水の湧水ポイントが大堀切(空堀)と東外堀(水堀)の境となる可能性もある。
- 2トレンチと同様、工場造成の際に東外堀と大堀切の接続部分も埋め立てられていることが判明。
- 大堀切内部に残る地形の高まりは、大堀切壁面の土砂が崩れた可能性が高い。
- 造成土の中から瓦が出土。



1トレンチ完掘状況(南東から)

## (2) 2トレンチ

- 2トレンチ中央付近で東外堀の西肩に当たるラインが検出。
- 地表面から2m程度掘削した段階で、多くの水が湧き出したことにより、堀底までの掘削を断念。
- 「遠州横須賀城図」では堀の壁面に石垣が描かれているが、今回の調査では検出されず。⇒廃城後に崩されたか?
- 土の堆積から、工場の造成の際に埋め立てられたことが判明。
- 出土遺物はなし。



2トレンチ東外堀検出状況(北から)

## (3) 3トレンチ

- 3トレンチ西側で東外堀の石垣が検出(東外堀では初!)
- 丸みを帯びた砂岩系の石で、石の大きさは10cm~30cm程度。
- 石垣は2段分残存しており、1段目からやや後ろに下がる形で2段目が積まれている。石垣の基礎として細かな円礫、角礫を充填。  
⇒西外堀の石垣の基礎は、木材を使用(工法の違い)。
- 廃城時に石垣が崩されたと考えられ、崩落土の中から石垣に使われた石材や瓦が大量に出土している。  
⇒堀に葺かれた塀瓦、建物の棟の部分を飾った鬼瓦が出土。
- 石垣の裏側に入れられた造成土から、かわらけ、軒瓦片が出土しており、石垣の構築時期の検討が今後の課題。  
⇒築城期の石垣か(井上氏か)、積み直しの石垣か(本多氏、西尾氏か)



3トレンチ石垣検出状況(北東から)

## (4) 4、5、6、7トレンチ

- 4トレンチで牛池の北肩、5トレンチで牛池の東肩、6トレンチで牛池の西肩が検出。
- 7トレンチでは、地表下2mに渡って工場の際の造成土が確認され、牛池の遺構は確認されず。
- 牛池の深さは少なくとも2.4m以上あり、東西幅は約30m(昭和9年段階の地籍図と整合する)。
- 牛池の北肩部分では、人為的に牛池を埋めた痕跡を確認。江戸時代の中で少なくとも2時期の池底が存在したことが判明。
- 牛池の西肩部分は、本丸・北の丸と三の丸を隔てる斜面を削る形で、池底のラインを作りだしていると考えられる。
- 牛池の堆積土から現代の廃棄物が見つかることから、工場が建てられる昭和頃までは池の落ち込み存在していたことが判明。
- 牛池の堆積土から瓦が大量に出土しているが、本丸・北の丸側に存在した建物・堀に葺かれた瓦が落ちた可能性が高い。  
⇒ヘラ書きが残された平瓦、豊臣時代の軒平瓦、陶磁器類が出土。
- 牛池が埋まった過程・時期の検討、牛池の南肩の検出が今後の課題。



4トレンチ牛池検出状況(北東から)



5トレンチ牛池検出状況(北東から)

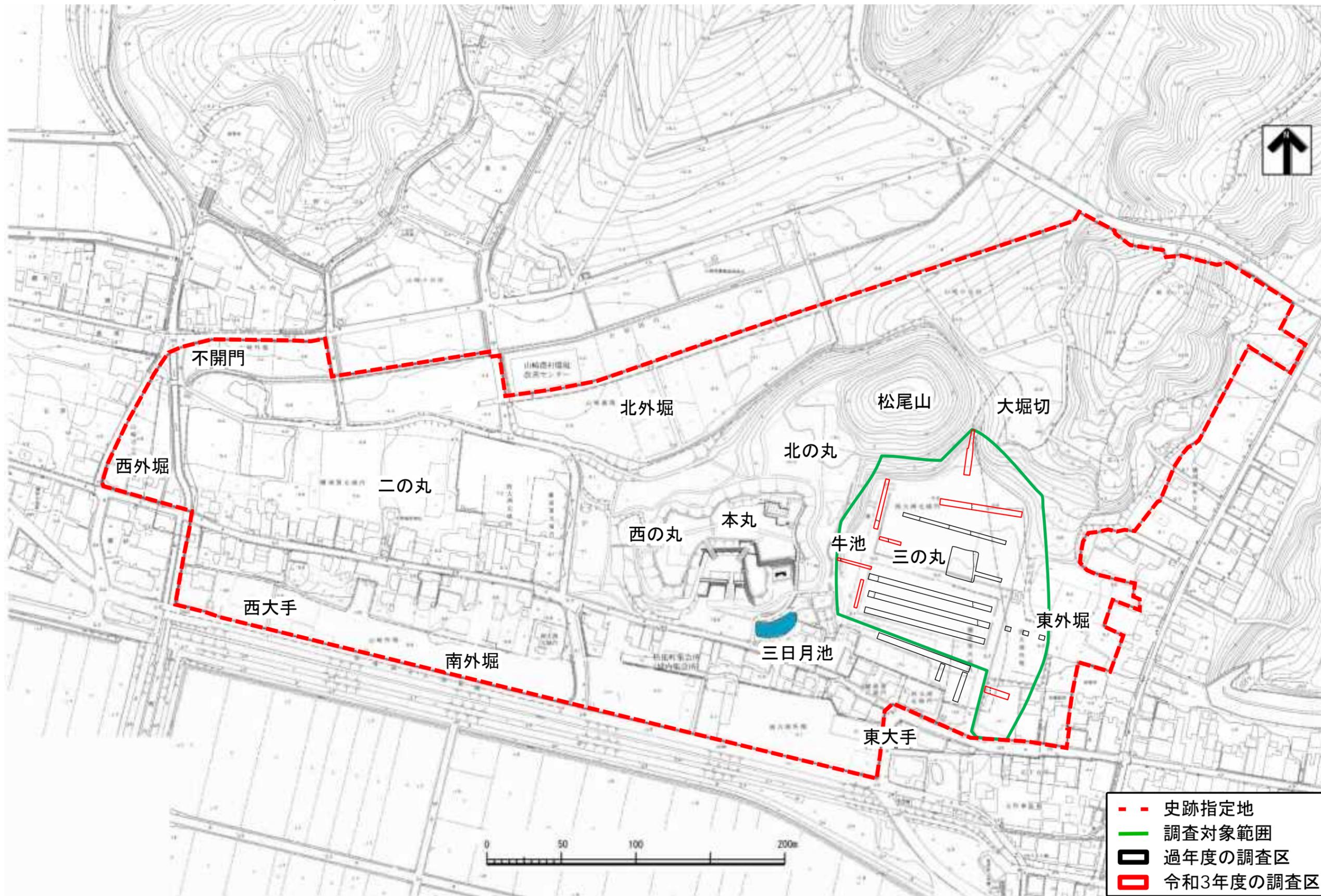
## おわりに

- 東外堀のラインや牛池の位置と規模について、大まかな想定ができるようになった。
- 東外堀と石垣が検出されたことの意義(5P参照)。  
⇒横須賀城の城域を考える上で重要な成果  
⇒石垣の構築方法が判明

## &lt;参考文献&gt;

- 大須賀町教育委員会編 1985a 『史跡横須賀城跡保存管理計画策定報告書』
- 大須賀町教育委員会編 1985b 『史跡・横須賀城跡 - 復原と環境整備のための基本計画』
- 大須賀町教育委員会編 1986a 『史跡横須賀城跡 - 東大手門跡発掘調査報告書』
- 大須賀町教育委員会編 1986b 『横須賀城跡確認調査報告書(富士電化(株)工場地内)』
- 大須賀町教育委員会編 1990 『横須賀城学術調査研究報告書』
- 掛川市教育委員会編 2010 『史跡 横須賀城跡整備基本計画』

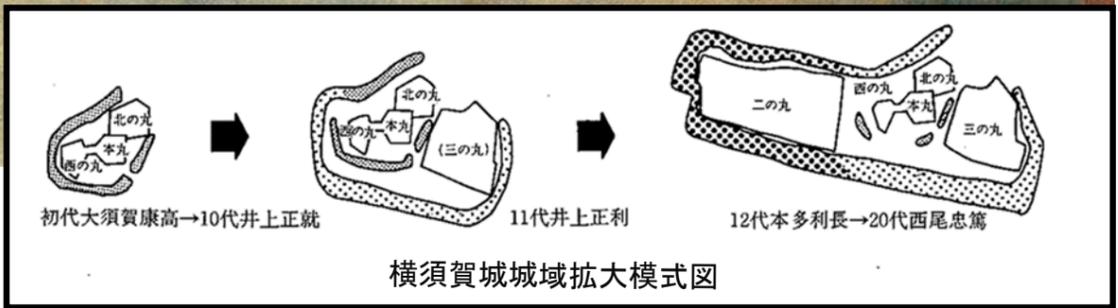
史跡横須賀城全体図(令和3年度の調査区を反映)



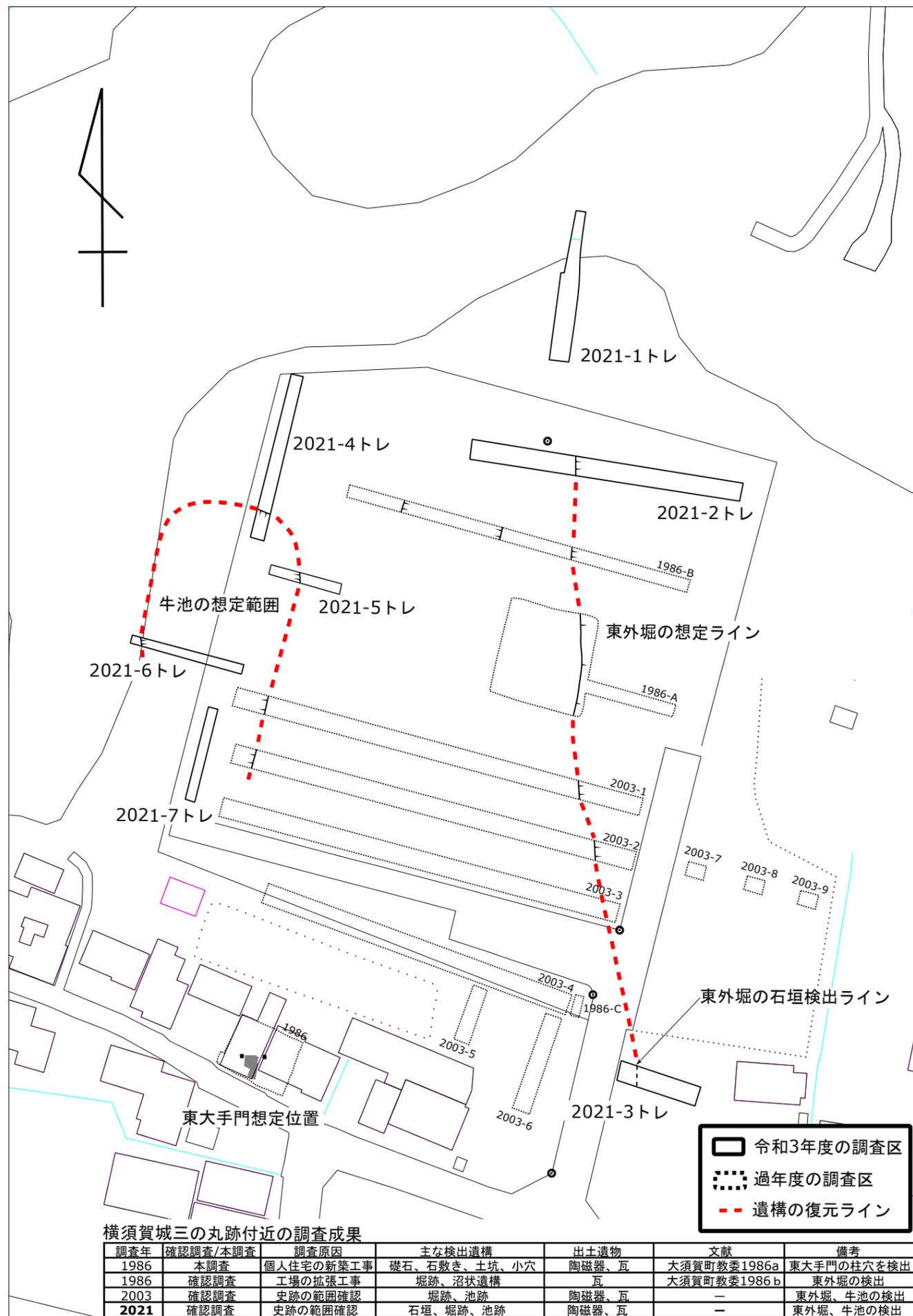
遠州横須賀城図(国立国会図書館蔵／絵図に加筆)

<調査の目的>

- ① 東外堀と大堀切との接続状況の確認
- ②・③ 東外堀の位置、規模の確認
- ④ 牛池の位置と規模の確認

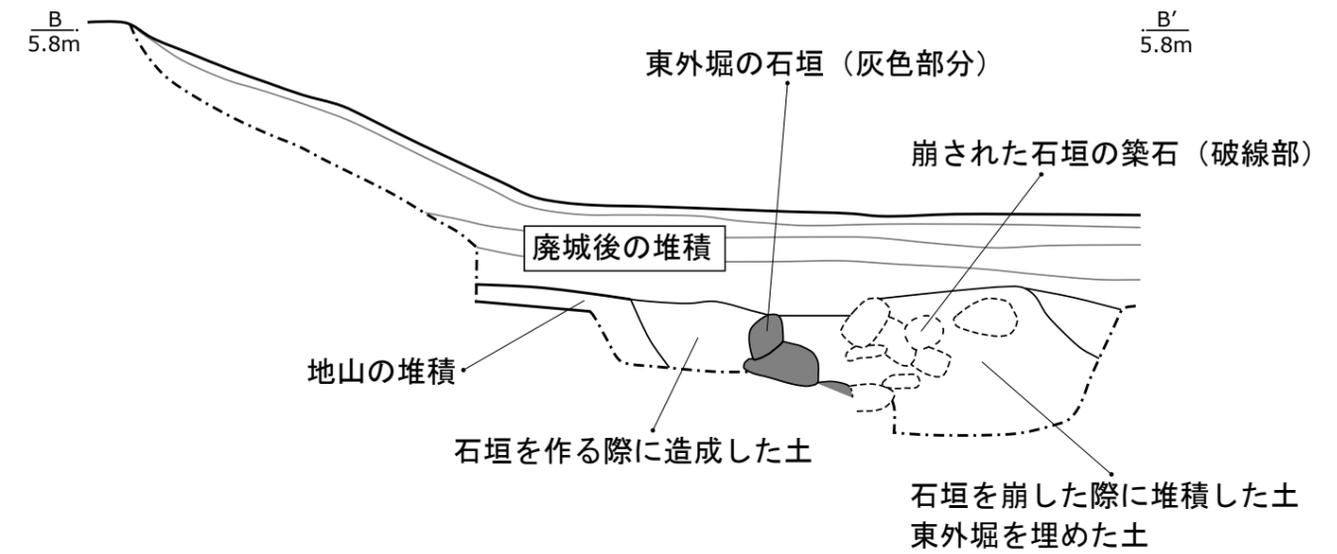


三の丸確認調査遺構平面図概略図

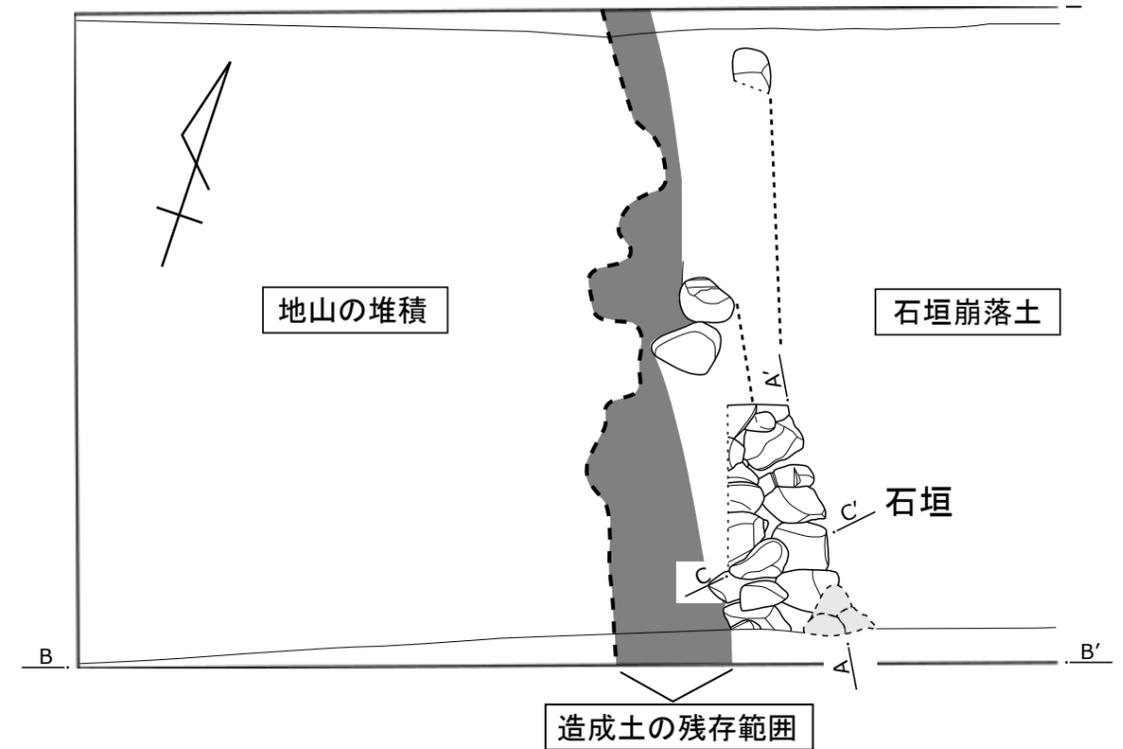


三の丸確認調査3トレンチ遺構平面図・断面図・石垣立面図

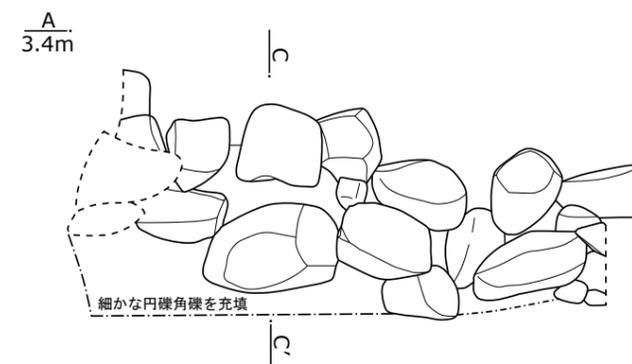
<① 3トレンチ南壁土層断面図 東西を反転して使用>



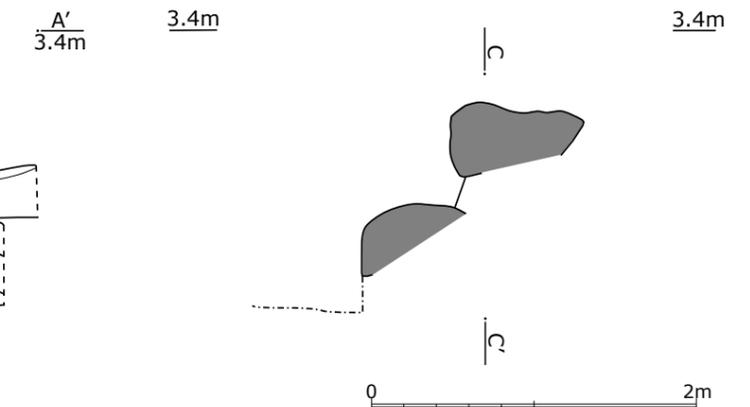
<② 3トレンチ遺構平面略図>



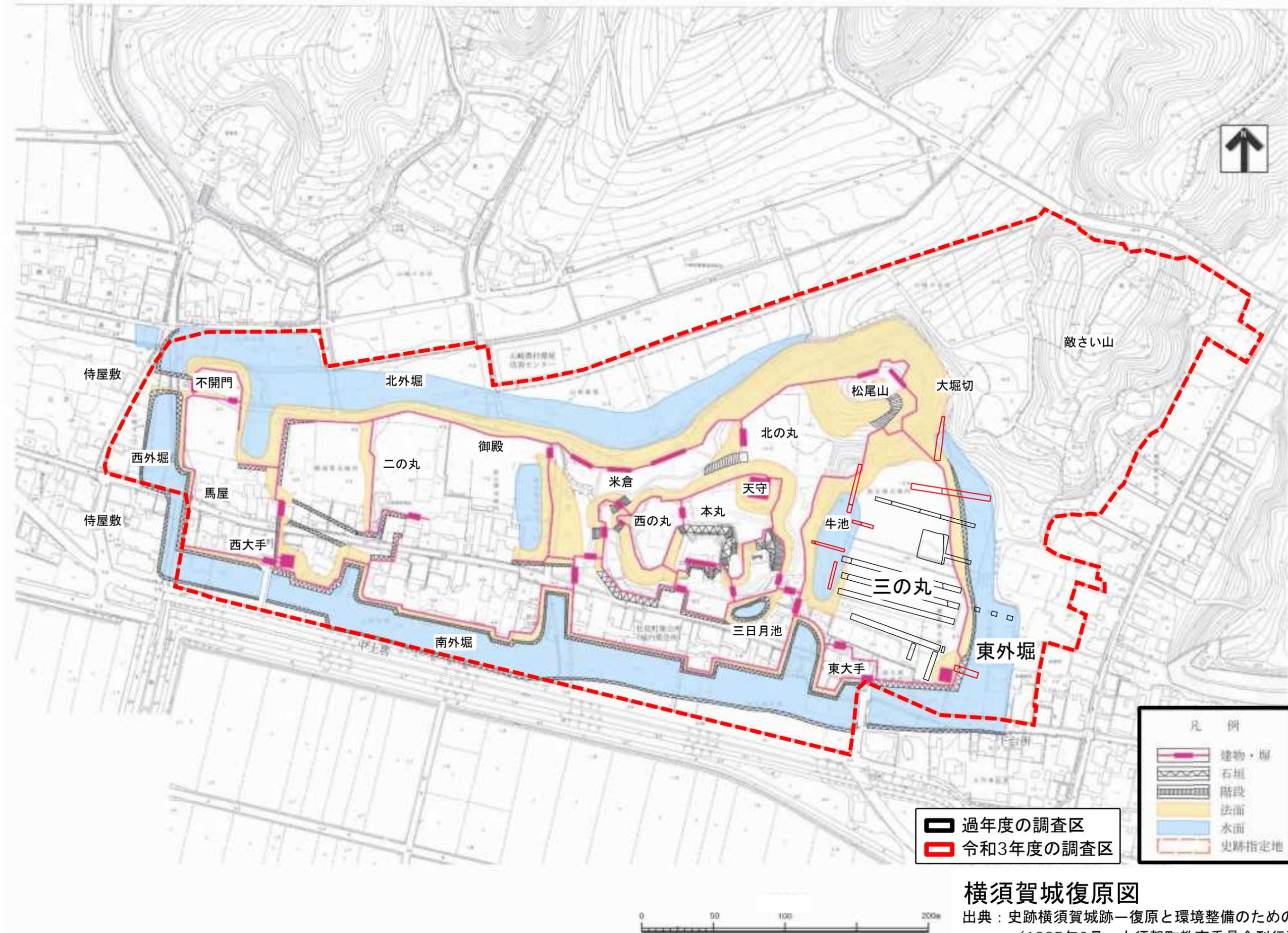
<③ 3トレンチ石垣立面図>



<④ 3トレンチ石垣断面図>



従来の横須賀城復原案（昭和60年作成の復原図に令和3年度調査区を反映）



**横須賀城復原図**  
 出典：史跡横須賀城跡—復原と環境整備のための基本計画  
 (1985年3月 大須賀町教育委員会刊行)